



牛牧小だより

令和7年度2月号

瑞穂市立牛牧小学校

まだまだ寒さの厳しい日が続いています。しかし、窓から入る陽ざしが輝きを増してきたり、木々の芽がもう少しで芽を吹くよと語りかけたりしているように感じます。

さて、2月3日は節分の日です。「節分」とは元来、季節の分かれる日の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しています。その中で立春が一年の初めと考えられることから、「節分」といえば、春の節分を示すものとなってきたそうです。また、季節の変わり目には邪気が生じやすいと思われていて鬼払いなどの儀式が行われるのが一般的になりました。「節分」に豆まきをするのは、新しい春を迎える前に邪気を払って幸福を呼び込むために行われていたものが始まりだそうです。

豆まきをされるご家庭もあるかと思います。「鬼は外、福は内」の声をかけながら豆まきをします。これは、悪い鬼をやっつけるのではなく、自分の心の中にある悪いところを外に出してしまうことだそうです。単にぶつけることを楽しむのではなく、自分の弱いところ、直したいところを願いながら行いたいものです。人はいくつになっても課題があり、反省する点もあります。そして、その課題を解決し、よりよくなろうとするのが、人としての成長です。ですから、子どもたちだけでなく、私たち大人も日々自分の生活や生き方を見直し、さらに成長していきたいものです。節分は、自分を見つめ直すよい機会にもなりそうです。

まごころこめて

右は6年生の教室前の廊下の写真です。廊下はぴかぴかで黒い線一本もありません。6年生の子どもたちが、自分たちが使っている場所を美しくしようと11月から空いている時間をみつけて廊下を磨き、12月の末にはワックスをかけを行ってくれました。6年生は廊下だけではなく、学校への感謝を伝えようと真心こめて、15分間の掃除をしています。

また、1月21日（水）、5年生は、初めて自分たちがリーダーとなって行うひかりの活動を計画、準備から頑張っていました。当日も班の仲間が楽しく笑顔いっぱいになるように心を込めて接する姿がたくさんありました。

「ありがとう」「すごいなあ」と、真っ直ぐな気持ちで仲間と接すると、仲間は嬉しい気持ちになります。心が温かくなります。しかし、誰にも気付いてもらえないときがあって、認めてもらいたいと思うときもあるでしょう。でも、人を嬉しい気持ちにさせてくれる『まごころ』は、人のためにあるものではなく、すてきな自分のためにあるものだ、この詩は教えてくれているようです。いつでも、どこでも、まごころをもって生活できる人はすてきですね。これは、なかよし宣言をめざすことにもつながります。



6年生
ぴかぴかの廊下



まごころ

心から「ありがとう」って思えるとき
「すごいな」って感動するとき
「ごめんね」ってやっと言えたとき
そこには きっと まごころがある

まごころのある行いは 周りの人の心を動かす
まごころを 感じとることができたとき
その人の中にも まごころが芽生え
まごころは つながりひろがる

ときには まごころをこめた行いをしていても
だあれも 気づいてくれないときもある
だれにも 認めてもらえないときだってある
いやになってしまうこともある

それでも
いつでも どこでも
まごころのある行いを続けられる人は
ほんとうに まごころの ある人だ